





計量調剤（散剤）の様子



薬剤交付の様子

前回（2006年8月30日）行った、第1回京都薬科大学OSCEトライアルでは日本薬学会OSCE内容・体制委員会を始め、評価者として近隣の大学および薬剤師会や病院薬剤師会等にご協力いただきましたが、今回は、OSCEを多くの先生方に経験していただきたく、学外評価者は要請しませんでした。OSCEでは、評価者間で話し合うことはできません。受験生に不利益を与えないためには、評価者間の評価のバラツキを出来るだけ最小にする必要があります。そこで評価基準の標準化並びに模擬患者の統一化を図るため、学内評価者伝達講習会を7月30日に、模擬患者養成勉強会を7月27日に開催しました。さらに参加学生に対するガイダンスを7月25日に開催しました。

8月2日はテストランを行った後、9：50よりトライアルを開始しました。トライアルの会場が実習室を使用していたため、点眼剤調製のステーションではクリーンベンチが無かったためか、椅子に座らず立ったままで調製する学生が続発しました。また散剤の調製では空調の関係で小数点以下2桁まで正確に秤量することが困難な状況である等のトラブルが発生しました。本番の試験では評価者から受験生に声をかけることは許されていませんが、今回は学生の評価を目的としていないため、評価者から最初に注

意を与えることで対応しました。午後からは60名の学生を対象に12：40から開始し、大きなトラブルもなく無事終了しました。ご協力いただきました教職員の皆様、そして神戸SP研究会の皆様に感謝し、心よりお礼申し上げます。

また、討論会において先生方からいただきましたアンケートを基に今後のOSCEの進め方について検討していく所存です。

最後に、来年度は4年制の最終学年となり、本番実施に向けた最終トライアルを予定しております。学生数約380名、6課題、6レーンを実施しようとした場合、評価者は最小でも144名（学生1名につき評価者2名×6課題×6レーン×交代）が必要となります。近隣の大学、薬剤師会、病院薬剤師会のご協力を賜らなければならない状況ですが、あくまでも本学の学生に対しては本学の教職員が主体とならなければなりません。

OSCE実施に向け、先生方には今まで以上のご理解と、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげ、報告とさせていただきます。

## 京薬論集刊行会主催 第5回 京都薬科大学 文化講演会 のお知らせ

日時：2007年11月3日（土） 午後2時～4時  
場所：京都薬科大学 愛学館 A31講義室（愛学ホール）  
講師：今井 千壽氏  
（本学基礎科学系外国語学分野准教授）  
演題：「『ガリバー旅行記』のグロテスク」  
講師：河野 茂勝氏  
（本学病態薬科学系薬理学分野教授）  
演題：「今や国民病『花粉症』とその治療薬」

京薬祭の見学とあわせて、是非とも御来聴下さい。



調剤鑑査の様子



## 定年退職のご挨拶



病態薬科学系  
病態生化学分野  
教授 佐藤 隆司

1974年4月に本学に赴任して以来33年間にわたり勤めさせていただきましたが、さる9月10日をもって退職いたしました。当時新設された生物薬学科の生化学Ⅱ教室（現、病態薬科学系病態生化学分野）の講師として赴任し、新しく建設された現在の8号館2階の研究室で本学での教育研究生活をスタートさせました。と言いましても赴任当時は机とロッカー以外は何もなく、当時の藤井達三教授（現名誉教授）と共に研究室の立ち上げから始めるという、本当のスタートでした。本年1月にこの8号館の耐震工事が施行されましたが、私の退職の年と重なり、私が居た教授室の壁全体が鉄筋で補強される様を見て、やはり30年以上も経つと我が身も老朽化に伴う大幅な補強が必要なのかと妙に納得しました。

学部学生諸君には、30年以上にわたり一貫して病気を中心に据えた「病態生化学」という講義を行ってきました。この講義は赴任当初から担当しましたが、乏しい専門的知識で病気の講義をする重圧を今でも覚えております。私なりに知識の注入に努力しましたが、そんな拙い知識で偉そうに講義をしていたのかと当時の卒業生に叱られそうです。今日の医療薬学重視の風潮から今でこそこの種の講義は全ての薬系大学で行われておりますが、30年前の当時にはこの種の講義をカリキュラムに入れている大学はありませんでした。今日の薬剤師教育を見据えた当時の藤井教授の先見の明ではありますが、本講義の導入により他大学生に無い特色ある知識を持った卒業生を送り出すことに微力ですが貢献できたと感じております。この講義は4年制制度の講義で、新6年制のカリキュラムでは3年次以降の薬物治療学という講義の中に含まれます。現3年次生の学生諸君に対する去る7月13日の講義が最終となり、約30年にわたる講義を終えました。一抹の淋しさはあるものの、何か満足感を覚えました。

薬学部6年制教育が昨年4月より始まりましたが、この薬学部始まって以来の改革に立ち会い、そのカリキュラムの編成に関わったことに、しかもこれが私の最後の公的な仕事になったことに感慨深いものがあります。幸いに6年制のスタートを見届けることが出来、順調に最初の1年が過ぎたことに安堵しておりますが、6年制教育はこれから佳境に入ります。2年次学生諸君は本学の6年制教育のルールを敷く先導者であり、皆さんの歩みが本学6年制を評価する鍵と

なります。私は2年次学生諸君が卒業する、6年制教育の完成年に立ち会うことが出来ませんが、学生諸君と教職員皆様による充実した本学6年制教育の完成を願ってやみません。

最後に、学生諸君の有意義な学園生活と、教職員皆様のご健勝を祈念しております。



創薬科学系  
機能分子化学分野  
教授 太田 俊作

本学は従来から、諸先輩の地道な努力の成果として優秀な薬剤師養成教育と高度な研究教育活動の両輪がうまく回転し、長年月を掛けて世間からの高い評価を得てきました。薬学部6年制の導入に当たり、殆どの国公立大学が6年制（職能教育重視型）と4+2年制（基礎教育・研究重視型）併置を後者重視で対応する中、6年制単独設置の本学はこれら両輪のバランスと効率よい回転が単独設置でも十二分に可能であることを世に示す責務とチャンスをもった数少ない大学と思います。このためには、「①優秀な学生が多数受験する → ②優秀な先生と優れた教育環境によって基礎科学教育が学生に叩き込まれ、かつ全人教育が実践される → ③若い人のサイエンスや様々の夢がかきたてられ、人格が磨かれる → ④学部・大学院の教育研究が活性化し、優秀な人材が育つ → ⑤その成果が世に問われる → ① → ……」という好循環サイクルが大学として極めて重要です。本学について付記すれば、京薬にしかない独創的・個性的・リベラルな研究活動を通じて若い人に夢と活力を与える教育法を重視し、ともすれば増加しがちな「山科薬剤師教習所」への傾斜角度を皆（教職員、学生、法人役員）で極力抑えることが全学的な好循環の維持に重要なポイントでありますので、後事宜しくお願い致します。定年退職する者が勝手気ままを言いますが、奉職35年後の老害的ツブヤキとしてご寛容下さい。

有効期限、賞味期限、耐用年数が薬、食品、自動車などにあるように、私にもこれらの期限（平成19年9月24日）がやって来ました。まだ一応調子よく走ってはいるようですが、よく見ると35年も走って車体はボロボロ、燃費（＝働きぶり÷給料）も低下、とりわけ最近音がうるさくなったなどの欠陥ポイントが目立ってきました。薬学6年制という新時代が始まって1年半、この旧式車を新しい優れた性能・機能・デザイン・コンセプトを備えたハイブリッド車などにリプレースして頂くには凶らずもタイムリーな定年退職となったと思います。優れたクスリと近代医療技術によるメンテナンスを受けながら耐

用年数期間を比較的元気に走ることが出来ました。その間、優秀な学生諸君、先輩後輩諸兄姉弟妹、教職員の皆様方、法人役員、および家族に終始支えられて大過なく過ごさせて頂いたことは大変幸運であ

り、幸福であったと思います。長い間、大変お世話になり有難うございました。京葉ブランドの益々の重厚化を願いつつ、心より感謝とお礼を申し上げます。

## 2008年度大学院入学選考結果

2008年度大学院薬学専攻博士前期課程・臨床薬学専攻修士課程及び博士後期課程（夏季募集、2007年度秋季入学）入学選考を8月27日（月）に実施し、8月31日（金）に合格発表を行いました。

薬学専攻博士前期課程・臨床薬学専攻修士課程の志願者は123名で合格者は113名、博士後期課程（夏季募集）の志願者は3名で合格者は2名、2007年度博士後期課程（秋季入学）の志願者は2名で合格者は1名でした。

○博士後期課程（夏季募集）の合格者数等

志願者数	3
受験者数	2
合格者数	2

（単位：人）

○博士後期課程（2007年度秋季入学）の合格者数等

志願者数	2
受験者数	1
合格者数	1

（単位：人）

○薬学専攻博士前期課程・臨床薬学専攻修士課程の合格者数等 （単位：人）

	一般	推薦	他大学	社会人	外国人	計
志願者数	76	38	7	1	1	123
受験者数	74	38	7	1	1	121
合格者数	68	38	5	1	1	113
	(Y62 R6)	(Y31 R7)	(Y4 R1)	(R1)	(Y1)	(Y98 R15)

Y：薬学専攻

R：臨床薬学専攻

## 2007年度 夏のオープンキャンパス開催

### 入試課

8月4日（土）5日（日）の2日間、夏のオープンキャンパスを開催しました。

両日とも猛暑となりましたが、合計898名の参加者がありました。本年度も、愛学館講義室での学長挨拶、大学紹介、ミニ講義の後、体験実習、研究室見学、相談会を実施しました。参加者からは、大学紹介について「わかりやすかった」、「大学や薬学のことがよくわかった」、ミニ講義については、「面白かった」、「興味が持てた」などの声がたくさんありました。また、研究室見学については、「設備が整っていて、きれいだった」、体験実習に

ついては、「面白かった」、「楽しかった」などの声が多く聞かれました。

相談会では、両日合計220名の参加があり、入試広報委員、事務職員、在学生が相談に応じました。参加者からは、「不明な点がわかって良かった」、「親切でわかりやすかった」、「やさしく丁寧だった」などの感想をいただきました。

今後も、より一層充実したオープンキャンパスにしたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



ミニ講義



相談会

### ミニ講義

8月4日（土）午前・午後 小暮健太郎教授（分析薬科学系薬品物理化学分野）  
「遺伝子治療のための人工ウイルス」

8月5日（日）午前・午後 秋葉聡准教授（病態薬科学系病態生化学分野）  
「肥満からはじまる動脈硬化とその治療薬の開発」

### 体験実習

- |                           |                 |
|---------------------------|-----------------|
| 1. モノを作ろう！見分けよう！          | （創薬科学系機能分子化学分野） |
| 2. 身近な薬「アスピリン」を分析してみよう！   | （分析薬科学系代謝分析学分野） |
| 3. 測ってみよう！室内環境！〔8月4日のみ実施〕 | （生命薬科学系公衆衛生学分野） |
| 4. DNAを観る                 | （生命薬科学系生化学分野）   |
| 5. 切っても切ってもプラナリア          | （生命薬科学系病態生理学分野） |
| 6. アレルギーとアレルギー病態モデル       | （病態薬科学系薬理学分野）   |
| 7. メンソレータム軟膏づくり           | （臨床薬学教育研究センター）  |



メンソレータム軟膏づくり

### 研究室見学

希望者がグループにわかれて、研究室や施設を見学した。



研究室見学の様子

### 相談会

教職員、在学生が参加者の相談に応じた。

## 2007年度 夏のオープンキャンパスアンケート集計結果 (高校生・受験生)

### 参加人数

	受験生	付添者	合計	昨年度
8月4日 (土) 午前	166名	64名	230名	304名
午後	93名	40名	133名	121名
小計	259名	104名	363名	425名
8月5日 (日) 午前	212名	108名	320名	307名
午後	135名	80名	215名	234名
小計	347名	188名	535名	541名
合計	606名	292名	898名	966名
昨年度	696名	270名	966名	

### Q1 オープンキャンパスを何で知りましたか？

(複数回答)

No.	回答	件数	(全体)%
1	本学のホームページ	237	55.4
2	高校の進路指導または資料	126	29.4
3	オープンキャンパスのチラシ	71	16.6
4	先輩・友人・知人	66	15.4
5	家族または親戚	34	7.9
6	予備校	14	3.3
7	受験雑誌など	6	1.4
8	新聞	4	0.9
9	その他	4	0.9
10	無回答	1	0.2

### Q3 受験する場合、どの方式で受験されますか？

(複数回答)

No.	回答	件数	(全体)%
1	B方式 (本学独自)	193	45.1
2	推薦入試	154	36.0
3	検討中	130	30.4
4	A方式 (センター前期)	125	29.2
5	C方式 (センター後期)	33	7.7
6	無回答	19	4.4

### Q2 参加された目的や動機は何ですか？

(複数回答)

No.	回答	件数	(全体)%
1	キャンパスなど施設・設備の確認	317	74.1
2	実験・研究などの施設・設備の確認	216	50.5
3	入試情報の確認	207	48.4
4	周辺の街並みや環境の確認	145	33.9
5	授業内容の確認	141	32.9
6	研究内容の確認	114	26.6
7	薬剤師国家試験対策についての確認	83	19.4
8	教育理念・方針、将来構想の確認	77	18.0
9	就職状況や進路指導の確認	76	17.8
10	薬学6年制の確認	70	16.4
11	クラブ・サークル活動などの確認	62	14.5
12	学費・奨学金・アルバイトなどの確認	38	8.9
13	病院・保険薬局実習の確認	28	6.5
14	在学生の確認やコミュニケーション	24	5.6
15	教職員の確認や相談	16	3.7
16	学生相談・サポート体制の確認	12	2.8
17	その他	12	2.8
18	無回答	10	2.3

### Q4 オープンキャンパス全体の感想はいかがでしたか？

No.	回答	件数	(全体)%
1	とてもよかった	250	58.5
2	まあよかった	141	32.9
3	あまりよくなかった	0	0.0
4	まったくよくなかった	0	0.0
5	無回答	37	8.6
合計		428	100.0

### Q5 オープンキャンパスに参加されて、京都薬科大学の印象や評価は変わりましたか？

No.	回答	件数	(全体)%
1	かなり受験意欲が高まった	196	45.8
2	少し受験意欲が高まった	175	40.9
3	変わらなかった	28	6.5
4	少し受験意欲が減退した	0	0.0
5	かなり受験意欲が減退した	0	0.0
6	無回答	29	6.8
合計		428	100.0



## 特集 早期体験学習（病院・薬局見学）

本年も6年制の重要科目である早期体験学習（病院・薬局見学）が、入学間もない1年次生全員を対象に実施された。薬剤師を志し本学に入学してきた新入生の決意を後押しし、早い時期から職業意識を高めておくことを目的とした学外授業だ。引率は専門分野の教員だけでなく一般教育の教員のほとんどが携わっている。学生のみならず教員にとっても薬剤師業務の内側を知る貴重な機会である。この早期体験学習に参加した引率教員と学生の代表にここから得られた数々の体験や印象などをまとめてもらった。現実の薬剤師業務を目の当たりにして見学者がどのように思ったのかその率直な声を聞いていただきたい。ここから薬剤師教育の新たな学習・指導の方向性が見出せるだろう。

### 早期体験学習（病院・薬局見学）を通して — どういう姿勢で6年間すごしたらよいか — 創薬科学系 薬化学分野 准教授 橋本 貴美子

1年次生の皆さんは病院・薬局見学をして何を感じたでしょう？これまでなんとなく薬学部へ行こうと思って勉強してきても、実際の薬剤師の仕事に直接ふれることはなかなかなかったのではないのでしょうか。自分の想像した薬剤師像と比べてみてどうでしたか？

私は薬学部出身ではありませんので、これまで薬剤師の方々ともほとんど話をしたことはありませんでした。ここ2年程皆さんと一緒に見学させていただき、何人もの薬剤師の方々とお会いしましたが、私にとっても皆さんと同様に初体験でした。皆さんを引率して、薬剤師の方々は何をお話していただいたら皆さんの将来の参考になるだろう？と考え、皆さんからの質問に足りない部分を補足しようと思いました。最初は扱う薬の数やら、患者数、薬は成分名と商品名どちらが重要？など質問しましたが、それよりももっと大切なのは、薬剤師の方々が何時、どういうきっかけでこの職業で生きていくことに決めたのかということをお話してもらおうことではないかと思うようになりました。何人かにお聞きしたところ、決心した時期もそれぞれですし、積極的にこの道を選んだ人がいる一方で、そうでない人もいます。積極的に選んだわけではないけど…という人も、この道に入った以上は覚悟を決めて、誇りと責任をもって勤めておられます。人が仕事をして給料をもらって生きていくということは、そういうことです。日々の仕事に生き甲斐（自分の知識を使って他人の役に立つこと、患者を観察することで薬の新たな効力を見つけ出したりすること）を感じ、国家資格の免許をもつ者の重責（他人の命に関わる仕事であること）を意識して、皆さんの先輩方は仕事をされているわけです。

大学に入ってくると、様々な勉強をしなければなりません。薬剤師をするのに、なんでこんな科目が

必要な？と疑問をもつ人もいるでしょう。その答は皆さんが40才、50才と年をとったときにわかるように仕組みられています。ですから、大学で皆さんがすべきことは、得手不得手はあっても、とにかくすべての科目に対して真摯に勉強することです。必要なものだけ（これは自分の未来がわからないので、本来選ぶことが不可能なものです）すればよいというような考え方では、自分の可能性を狭めて貧しい人生に終わってしまいます。6年後は薬剤師になるのか、企業に勤めるのか、皆バラバラの進路を選ぶこととなります。ただ、自分の希望があっても、選ぶ権利は相手にあるわけで、採用する側はいかにその人が自分に投資をしたか（時間、労力、お金を自分を磨くために使ったか）を見ています。社会に出て働くということは、自分の能力と時間を売って、それに見合うお金をもらうことです。今はまだ社会人になるのは遠い未来と感じるでしょうし、本当にこの道を選んで良かったのかと疑問をもつこともあるでしょう。その時は皆さんの先輩方の仕事に対する姿勢を思い出してみてください。

与えられた時間は皆同じです。それを将来に向けてどう活かすのかは皆さん次第です。



窓口での説明

## 病院薬剤部見学について

1年次生 辻本 佳亮

私は今まで、患者という立場から薬を受け取るだけであったので、その向こうでどのような仕事が行われていたのかを垣間見ることは出来なかった。今回第二赤十字病院の薬剤部を見学させていただいて、患者という視点ではなく、薬学生として薬局を見学出来たというのは、大変貴重な体験となった。どのような設備があるのか、薬剤師とは調剤以外にどのようなことを行っているのかなど、将来自分が携わるであろう仕事を具体的に知ることが出来たと思う。

私の中に特に印象深く残ったのは、抗癌剤調剤の設備を見学させていただいた時のことである。無菌室の中には、更に厳重に滅菌された部屋が存在していた。その部屋の中で、薬剤師の方は無塵衣を着用した上で点滴薬を取り扱っておられた。注射薬はクリーンベンチにより手元だけを更なる無菌状態にして調剤を行っていた。私が視覚的に感じたのは、無菌にする装置が複数あり、その形状もそれぞれ全く異なっていることへの驚きである。感覚的に感じたのは、仕事の厳密さ、厳重さに対して、将来自分がこの場所で働く可能性に対しての緊張感であった。

見学の後は薬剤師の方から話を聞かせていただいた。それは今後の病院薬剤師のあるべき姿とは、今後の薬剤師に求められる心構えとは、という内容であった。

薬剤師はより深い知識を持って医師との連携を深める必要があるということ、そしてこれは一部が連携を取っていた昔の形態とは大きく異なるということなど、薬学生としての自覚を持たなければと思わされるような貴重な話ばかりであった。薬学部は六年制となり、私達には2年多くの時間が与えられたわけであるが、その時間がなぜ必要なのかということに改めて考えさせられた。

最後に、私はこの薬剤部見学によって今後大学で薬学を学ぶ上での姿勢や心構えを考える機会をいただいたと思う。そして自分が目指すべき薬剤師像をより具体的なものにすることが出来た。その自分が思い描いた薬剤師像に近づいて行けるよう、私は今後も勉学に励んでいこうと思う。

## 保険薬局見学に行つて

1年次生 井関 優里

早期体験学習として私はコスモス薬局さんの所へ見学に行ってきました。私の母は自宅で薬剤師として働いています。だからずっとそんな母の姿を見てきたので、正直なところ見学に行く前は「っえ…、今更薬局見学…めんどい…。病院の方

が行きたかったな〜。」とっていました。ところが、いざ見学に行つて私は驚きました。コスモス薬局さんでは思っていたよりたくさんの薬剤師さん達がいて、とても機械化されていました。今では処方箋にQRコードが付いているものもあり、それを読み取るだけで患者さんの情報がすぐに出てきます。それも初めて見たので驚きました。処方箋を受け取つたら、散剤、液剤、錠剤に分けて情報を流し、それぞれの場所で一斉に調剤を始めます。このようにコスモス薬局さんでは患者さんに少しでも早くお薬を渡せるようにと分割調剤が行われていました。また、それぞれの調剤の場でミスが絶対起こらないよう、ICチップを使つていたり、などなど他にも細かな工夫がたくさんありました。分包機も家で見ていたのとは比べ物にならないくらい大きな物でした。また電子薬歴など書ききれないほど機械化されていましたが、それだけでなく患者さんのことを思った心遣いも多く見られました。もちろん車椅子の患者さんにも対応できるようにや、特殊な患者さんの為の個室もありました。患者さんのプライバシーを守るために、服薬指導の場でも工夫があつたりと機械化されていても、患者さんへの心遣いは決して忘れていないという所が素晴らしいと思いました。

母の薬局は本当に小さな薬局で、そんな姿が普通だと思っていたので、今回見学に行つて、こんな調剤薬局の姿もあるのだと知ることができて、とても良かったと思います。小さいなら小さいなりの患者さんとのより近い距離というような良い点がある。大きいなら大きいなりにも多くの良い点があるが、この2者をもっとうまく混ぜ合わせる事ができたら、本当に素晴らしい調剤薬局ができるのではと思いました。薬局見学なんて…、と聞いていましたが、終わってみると本当にとってもいい経験ができたと思いました。できることなら病院薬局の方も見学したいなあ〜と思っています。



分包装置の扱い方を学ぶ



## 京都薬科大学教育後援会寄贈図書

京都薬科大学教育後援会より下記の書籍を寄贈頂きましたので、ご利用ください。

書名	著者名 / 出版社
一瞬の風になれ : 1-3	佐藤多佳子[著] / 講談社
模倣犯 : 1-5	宮部みゆき[著] / 新潮社
ホテル・ニューハンプシャー	ジョン・アーヴィング[著], 中野圭二訳 / 新潮社
ナイチンゲールの沈黙	海堂尊[著] / 宝島社
夜は短し歩けよ乙女	森見登美彦[著] / 角川書店
イナイ×イナイ	森博嗣[著] / 講談社
ハゲタカ : 1-2	真山仁[著] / 講談社
おまけのこ	畠中恵[著] / 新潮社
空の中	有川浩[著] / メディアワークス
探偵ガリレオ	東野圭吾[著] / 文芸春秋
鴨川ホルモー	万城目学[著] / 産業編集センター
オーデュボンの祈り	伊坂幸太郎[著] / 新潮社
押入れのちよ	荻原浩[著] / 新潮社
暗いところで待ち合わせ	乙一[著] / 幻冬舎
前巷説百物語	京極夏彦[著] / 角川書店
メルメ・カシオン : 幕末フランス怪僧伝	富田仁[著] / 有隣堂
赤い夢の迷宮	勇嶺薫[著] / 講談社
黒と茶の幻想	恩田陸[著] / 講談社
カシオペアの丘で	重松清[著] / 講談社
とるにたらないものもの	江國香織[著] / 集英社
ぼくの手はきみのために	市川拓司[著] / 角川書店
華麗なる一族	山崎豊子[著] / 新潮社
海辺のカフカ	村上春樹[著] / 新潮社
ひらめき脳	茂木健一郎[著] / 新潮社
眉山	さだまさし[著] / 幻冬舎

等 206冊

書名リストは、図書館ホームページ (<http://libopac.kyoto-phu.ac.jp>) をご覧下さい。

## 図書館開館日程

## 10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
<b>7</b>	<b>8</b>	9	10	11	12	13
<b>14</b>	15	16	17	18	19	20
<b>21</b>	22	23	24	25	26	27
<b>28</b>	29	30	<b>31</b>			

## 11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	<b>3</b>
<b>4</b>	5	6	7	8	9	10
<b>11</b>	12	13	14	15	16	<b>17</b>
<b>18</b>	19	20	21	22	<b>23</b>	<b>24</b>
<b>25</b>	26	27	28	29	<b>30</b>	

## 12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
<b>2</b>	3	4	5	6	7	8
<b>9</b>	10	11	12	13	14	15
<b>16</b>	17	18	19	20	21	22
<b>23</b>	<b>24</b>	25	26	27	<b>28</b>	<b>29</b>
<b>30</b>	<b>31</b>					

**太字**が休館日です。開館時間は月～金曜日9:00～18:00 土曜日10:00～17:00となります。臨時に休館する事がありますので、図書館掲示板で確認して下さい。

## 受賞

### 第12回 病態と治療におけるプロテアーゼとインヒビター学会 奨励賞受賞

2007年8月3日～4日、千里ライフサイエンスセンター（大阪）にて開催された標記の学会において、創薬科学系薬品化学分野の行なったポスター講演が優秀であると認められ、香月紀子さん(博士前期課程2年、演題「アミノ基導入によるジペプチドミメティックの抗HIV活性の改善」)と大田博子さん(同1年、演題「コンフォメーションの安定化によるBACE1阻害剤の設計」)が奨励賞を授与されました。

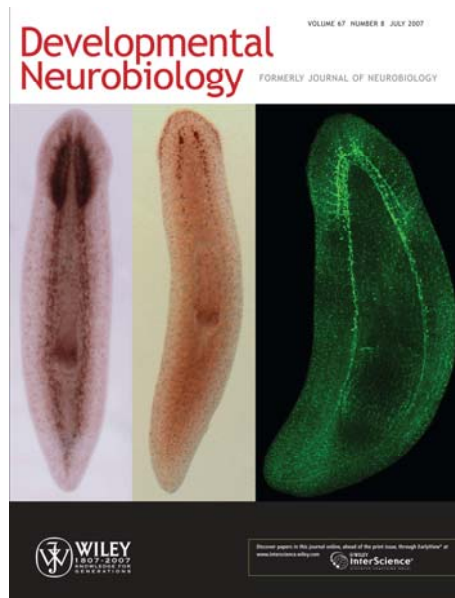


### 病態生理学分野の研究がDevelopmental Neurobiologyの表紙を飾る

生命薬科学系病態生理学分野のプラナリアにおけるドパミン神経機能の研究が米国の発生神経生物学雑誌Developmental Neurobiology (2007年67巻8号) の表紙に選ばれました。

本研究は、どんな切り方をしても元通りに再生する扁形動物プラナリア (*Dugesia japonica*) におけるドパミン神経の機能解明ならびに神経ネットワークの可視化に世界で初めて成功しました。写真は左からプラナリアのPC2 mRNA発現細胞 (全ての神経細胞)、チロシン水酸化酵素 (TH) mRNA発現細胞 (ドパミン神経) およびTHタンパク質発現細胞・神経ネットワークを示しています。ドパミン神経はごく一部の神経細胞にしか発現していないため、遺伝子クローニングに1年以上かかりました。さらに抗体作製、RNA干渉 (RNAi) によるTHノックダウンプラナリアでの行動薬理学実験まで行っています。この論文は、博士後期課程3年次生の西村周泰君が5年間実験した集大成 (全20ページ) です。プラナリアにおけるドパミン神経ネットワークは、「自由の女神」の冠のように突起があり女性の冠のティアラに似ていることから、dopaminergic tiara (ドパミン神経ティアラ) と Corresponding author の北村が名付けました。

「自由の女神」の突起は7本 (7大陸・7大海の意) ですが、プラナリアのドパミン神経ティアラは18本あります。プラナリアは「脳」と呼べる中枢神経系を獲得した最初の生物なので非常にシンプル



な脳なのですが、今回の研究で複雑なネットワークを構築していることが明らかとなりました。また、再生能力も高く、ドパミン神経ティアラは約7日間で完全に再生・再構築されることもわかりました。このドパミン神経の再生・再構築メカニズムが解明できれば、パーキンソン病などの神経変性疾患の再生医療における新規治療戦略が提供できると期待されます。

Nishimura K. *et al.* Reconstruction of dopaminergic neural network and locomotion function in planarian regenerates. *Dev. Neurobiol.* 67:1059-1078 (2007).

ク ラ ブ だ よ り

剣道部

私たちは夏に千葉で行われた全国薬学生剣道大会において団体戦で男女ともにベスト8に入りました。女子個人戦でも1年次生がベスト8まで進むことができました。1週間後に名古屋で行われた関西薬学生剣道大会では男子団体戦で準優勝という結果を得ることが出来ました。去年の準優勝、優勝と比べるといささか物足りない気もしますが、夏場、部員全員が暑い中必死に練習した成果が出たのではないかと思います。先輩方にもお忙しい中私たちに稽古をつけて頂き、ありがとうございました。

混声合唱団ユーベルコール部

混声合唱団ユーベルコールは、第44回定期演奏会を下記の通り行います。入場無料となっておりますので、たくさんの方のご来場をお待ちしております。

日時： 11月24日(土) 17:30開場 18:00開演  
 場所： 京都市東部文化会館  
 曲目： 1st 混声合唱組曲「幼年連禱」  
 2st 企画ステージ  
 3st 混声合唱組曲「水のいのち」

管弦楽部

いよいよ差し迫ってまいりました第35回定期演奏会に向け、部員一同、日々熱の入った練習をしています。

第35回定期演奏会

日時：12月2日(日) 開場18時半 開演19時  
 場所：長岡京記念文化会館大ホール  
 曲目：ベートーヴェン 交響曲ハ短調  
 ドリーブ バレエ組曲「 Coppélia 」より  
 シベリウス 交響詩「フィンランディア」

年に一度のこの定期演奏会に向けて頑張ってきました私たちの思いが伝わるよう、心を込めて演奏いたします。たくさんの方々の御来場を心よりお待ちしております。

また来月始めに開催されます京薬祭でも、ステージ発表、模擬店を予定しております。おなじみの曲を演奏いたしますのでぜひお越しください。

その他管弦楽部についての詳細はこちらのホームページへ

<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~kpuorche/index.html>

ソフトテニス部

ソフトテニス部です。8月に伊勢で薬連が行われました。

結果は男子が団体戦優勝し2連覇を果たし、個人戦では寺井・藪田ペアが第2位、岡元・柴田ペアが第3位となりました。女子は団体戦第3位入賞を果たし、個人戦では山本・雲ペアが第3位、池堂・上田ペアが8位入賞となり、男女ともに良い結果を残すことができました。

幹部が交代し、新しいキャプテンを中心に11月に行われる六校リーグに向けて練習に励んでいます。六校リーグにおいても良い結果を残せるように頑張っていきたいです。

お 知 ら せ

2007年度京薬祭せまる！！

今年も、京薬祭の開催時期が近づいてまいりました。

例年以上に素晴らしいイベントとするため、実行委員会スタッフが一丸となり、多忙な学生生活の合間を縫って準備に奔走しております。

多数の方にご参加いただきますよう、ご協力をお願い致します。

(学生課)

<実行委員長より一言>

各クラブから、やる気のある1年次生を迎えて4ヶ月が過ぎました。

京薬祭スタッフは、11月初旬の京薬祭の成功に向けて各自一人一人が日々知恵を出し合い取り組んでいます。

今年から始めること、今までやってきたことを更に楽しめるように日々、企画・内容を検討しています。

当日はたくさんの方が京薬祭の方に足を運んで頂くことを、スタッフ一同心からお待ちしております。

期 間 11月2日(金)～11月4日(日)  
 ※ 11月2日は体育祭

メインテーマ 結～ゆい～  
 主な企画内容 フリマ・バザー、健康相談、福引、カラオケ、クイズ、模擬店、お笑い(よしもと) 他



## 2007年度卒業式・学位記授与式（前期）

9月28日（金）午後3時30分から愛学館7階の第1会議室において、2007年度卒業式・学位記授与式（前期）を執り行いました。

課程博士1名、論文博士5名に学位記（博士）、同製薬化学科9名、同生物薬学科18名に卒業証書・学位記（学士）が西野学長から授与されました。

式終了後、午後4時30分から、愛学館1階の学生食堂で「卒業記念祝賀会」が開催され、卒業生、教職員を交え楽しいひと時を過ごしました。

## 人 事

### 昇任

2007. 7. 1付

創薬科学系 薬品化学分野 准教授 木村 徹

2007. 10. 1付

分析薬科学系 薬品分析学分野 教授 北出 達也

分析薬科学系 代謝分析学分野 教授 安井 裕之

### 採用

2007. 7. 1付

生命薬科学系 微生物・感染制御学分野  
助 教 皆川 周

2007. 10. 1付

生命薬科学系 微生物・感染制御学分野  
准教授 奥田 潤

医療薬科学系 薬剤学分野 准教授 坂根 稔康

創薬科学系 薬品製造学分野 助 教 小関 稔

創薬科学系 薬品化学分野 助 手 日高 興士

### 退職

2007. 6. 30付

生命薬科学系 微生物・感染制御学分野  
助 教 小川 倫洋

2007. 8. 31付

生命薬科学系 分子生体制御学分野  
助 教 岸本 三佳

2007. 9. 10付

病態薬科学系 病態生化学分野  
教 授 佐藤 隆司

2007. 9. 24付

創薬科学系 機能分子化学分野  
教 授 太田 俊作

2007. 9. 30付

創薬科学系 薬品製造学分野 助 教 加藤 孝博

進路支援部 進路支援課 課 長 小西 富康

## 称号授与

2007. 9. 11付

名誉教授 佐藤 隆司

## 京薬会だより

今年も多く支部でOB会（支部総会）が開催されます。

和歌山を皮切りに、宮崎、鹿児島、高知、大阪で既に開催され、10月以降は下記の予定で開催されます。

仕事上の情報交換（入手）に精を出す人、青春時代の山科に懐古の花を咲かせる人、趣味の芸を披露する人、毎年変わった演出をする支部等々支部総会にもいろいろな顔があります。

### <今後の予定>

10月21日（日）	愛知支部
10月28日（日）	三重支部
11月17日（土）	岡山支部
11月18日（日）	広島支部
11月24日（土）	京都支部
11月25日（日）	兵庫支部
12月 1日（土）	東京支部

### <学生支援策>

京薬会では、現役の学生に対しいろいろな支援を行って来ましたが、今年から新たに、次のような支援策を加えたいと思います。

- 過去1年、対校試合で優秀な成績を収めたクラブ又は京都薬科大学の評価（名声）を高める活動をしたクラブの表彰。（3クラブ表彰予定）
- 春の代議員総会時において、OBとの合同ステージで音楽を演奏してくれるクラブの募集。（もちろん謝礼も？）

### <公開講座>

本年度は、10月20日（土）午後1時より本学にて開催されます。

今回の講演テーマは、「すこやかに明日を！ ―歩きましょう―」です。